

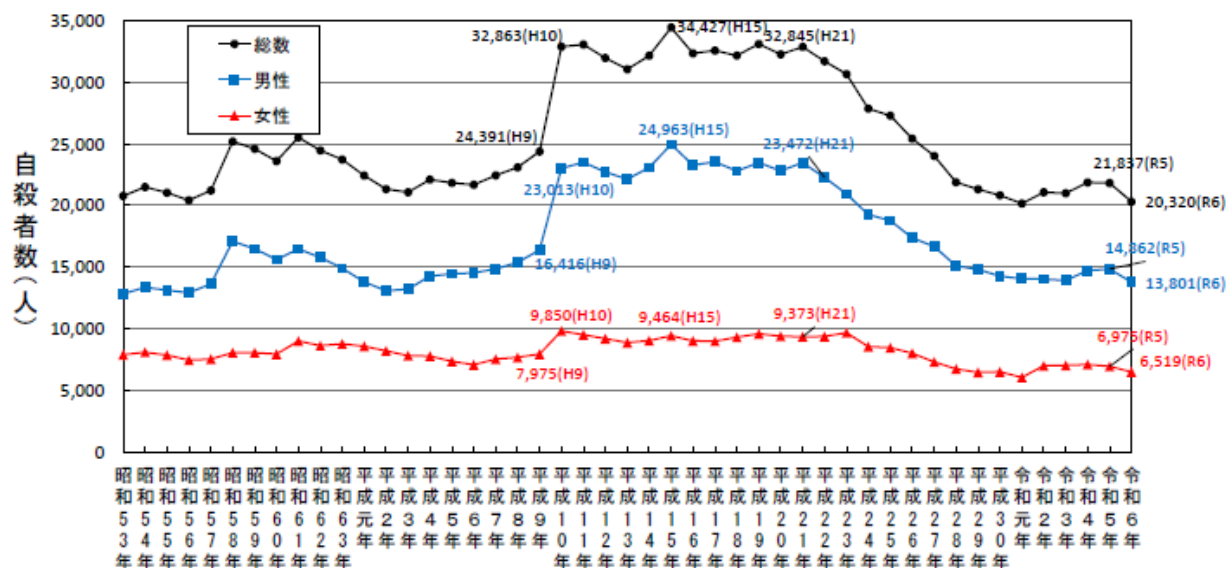
令和 6 年 本市自殺の現状について

1	全国の自殺の概況	2
2	本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移	4
3	本市の自殺の現状	5

1 全国の自殺の概況

自殺者数の年次推移

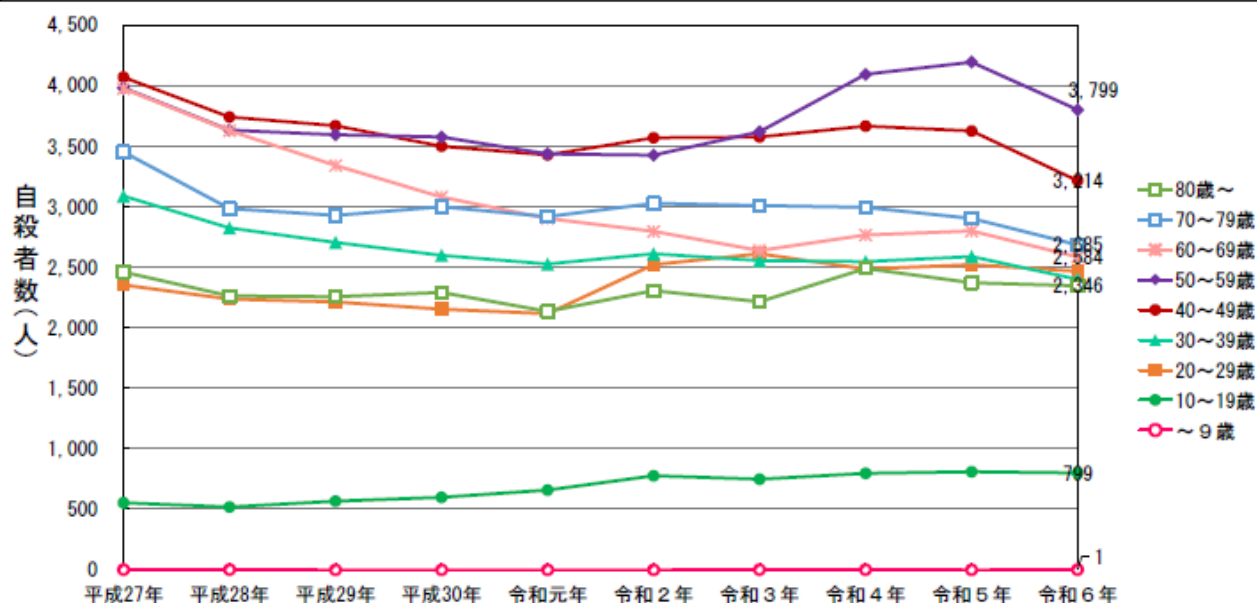
○令和6年の自殺者数は20,320人で、前年と比べ1,517人減少し、過去2番目に少ない数値となった。
○男女ともに減少しており、男性は3年ぶりの減少、女性は2年連続の減少となった。また、男性の自殺者数は、女性の約2.1倍である。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

年齢階級別自殺者数の年次推移

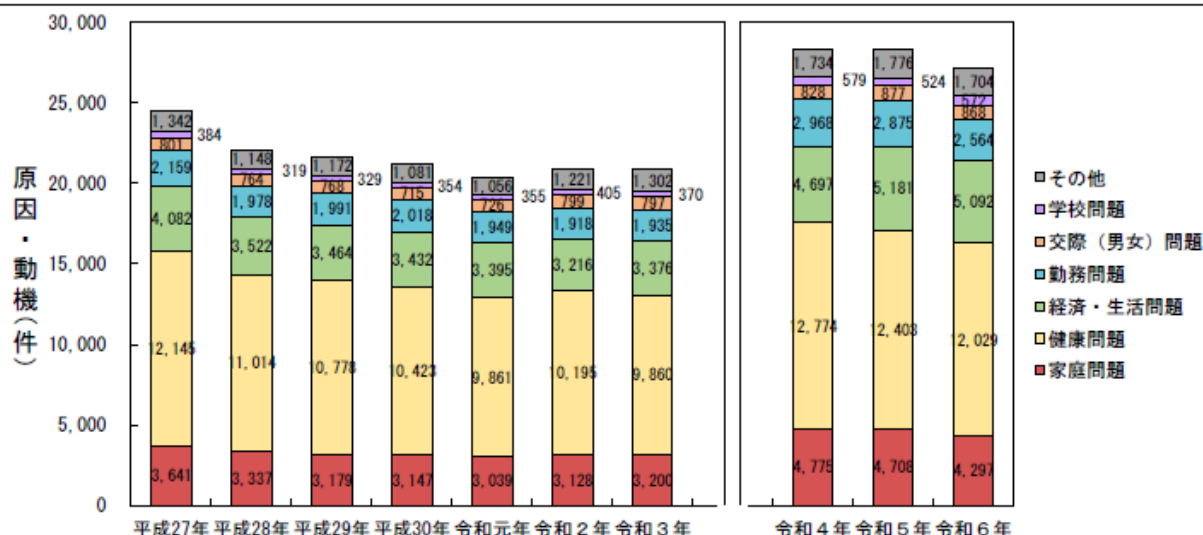
○令和6年は前年と比べ、ほとんどの年齢階級で減少した。
○最も減少した年齢階級は40歳代（411人減）であった。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺の原因・動機の年次推移

○学校問題は増加し、それ以外（家庭問題、健康問題、経済・生活問題、勤務問題、交際問題、その他）は減少した。

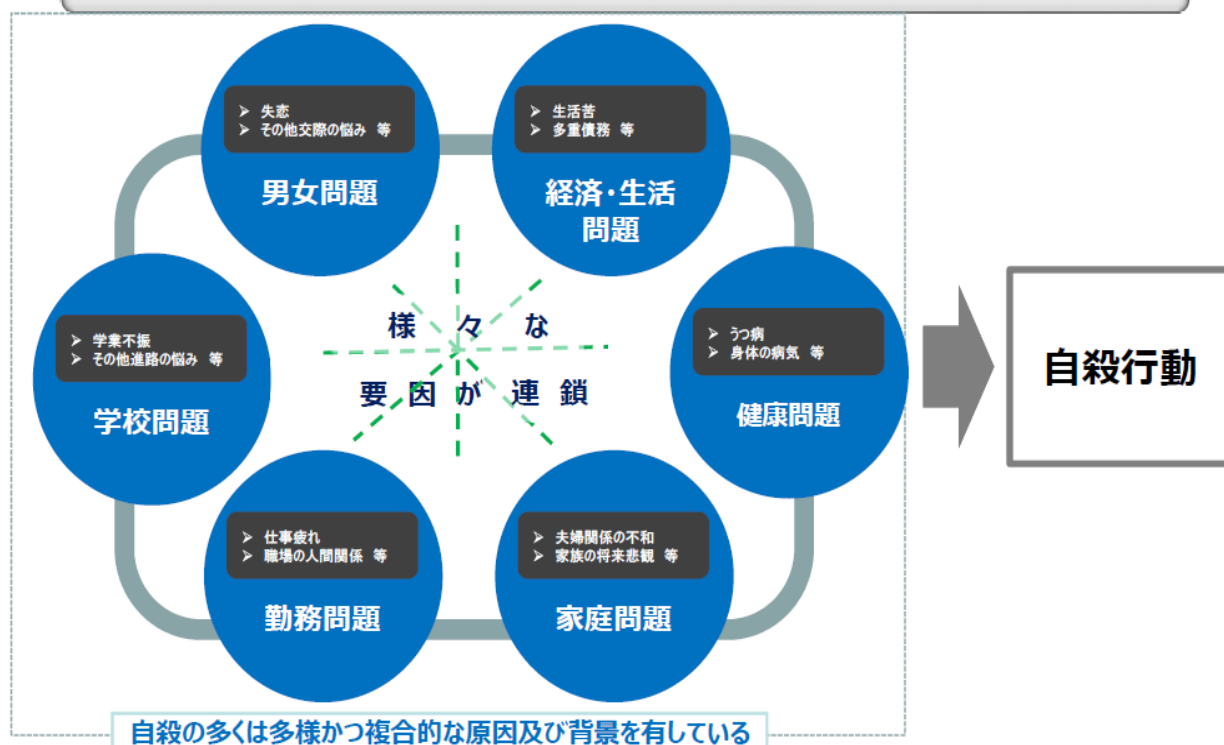


※ 自殺の原因・動機について、令和3年までは、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者1人につき3つまで計上可能としていたが、令和4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者1人につき4つまで計上可能としている。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

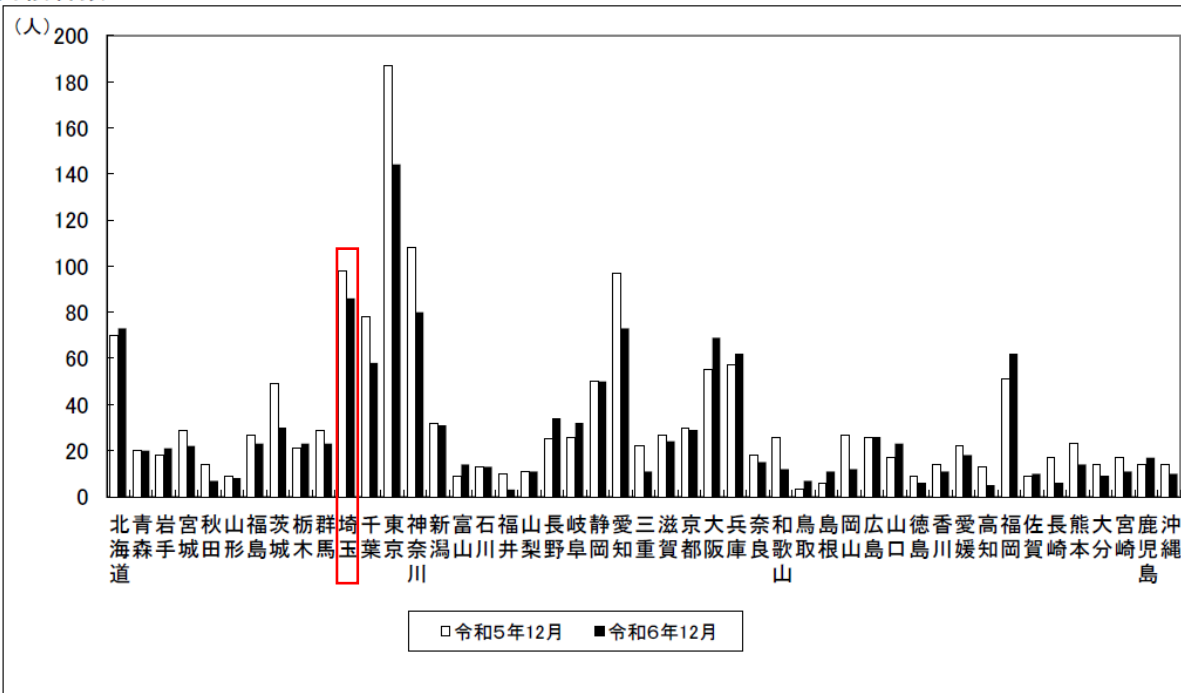
自殺の原因・背景について

- 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
(「経済・生活問題」や「家庭問題」等、他の問題が深刻化の中で、これらと連鎖して、うつ病等の「健康問題」が生ずる等)

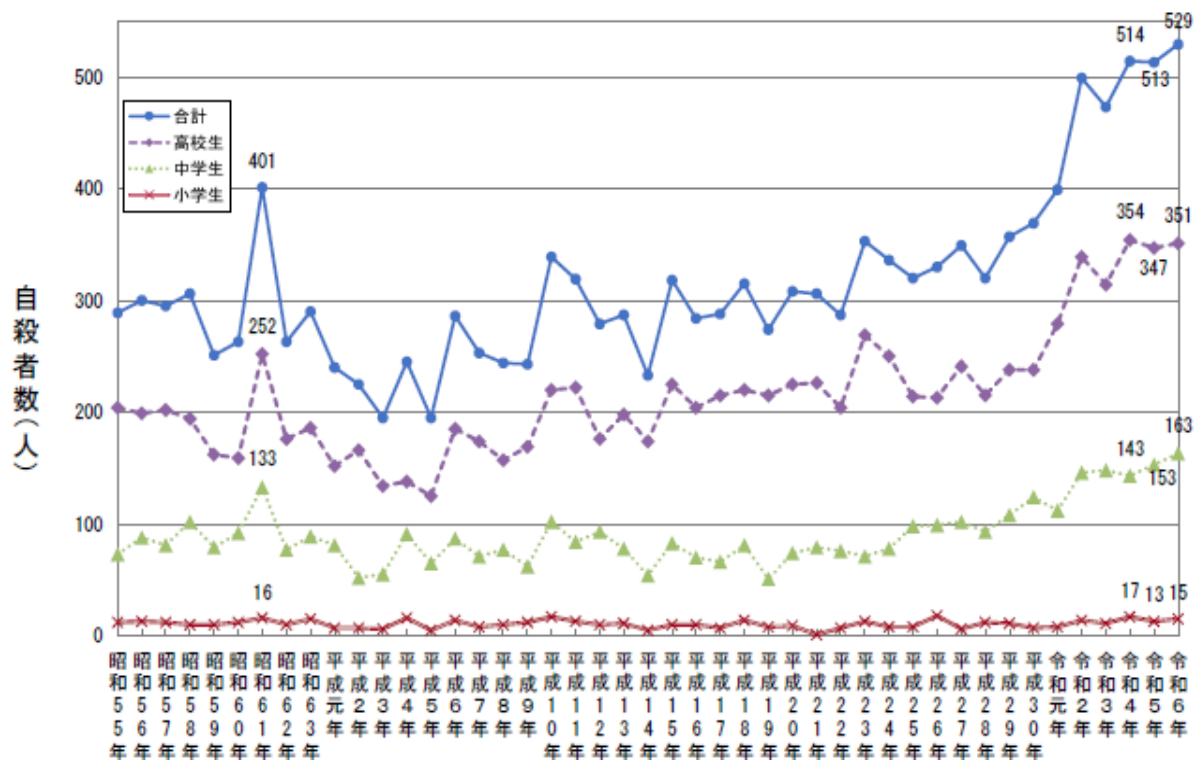


令和5年及び令和6年12月の自殺者数等の比較(都道府県別グラフ)

自殺者数

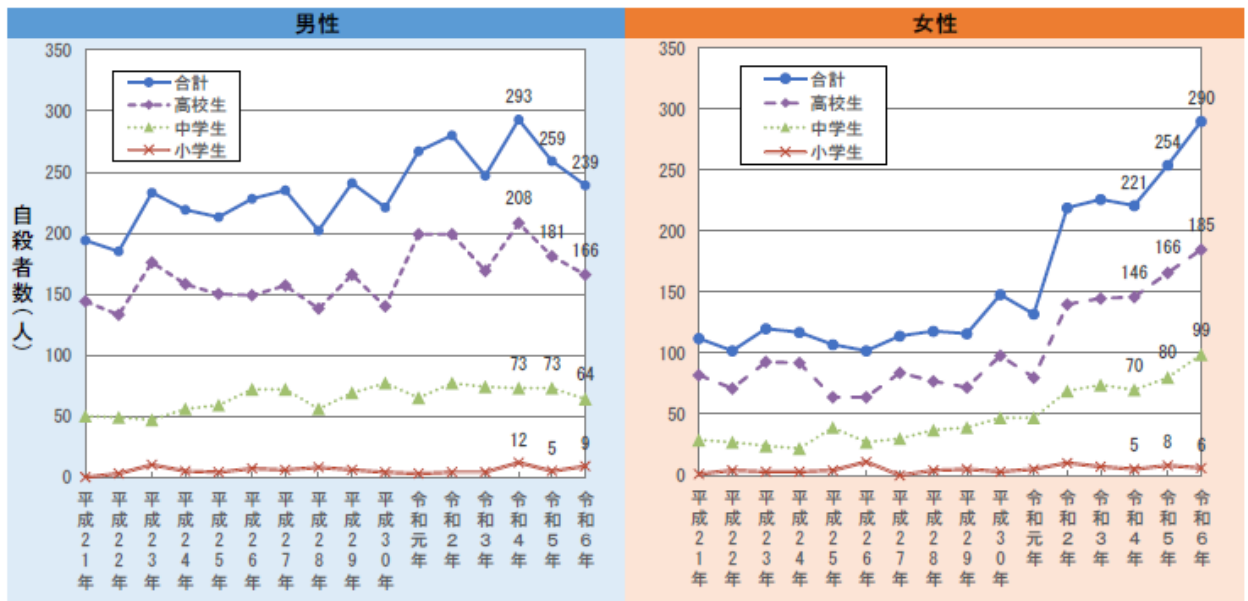


小中高生別自殺者数の年次推移



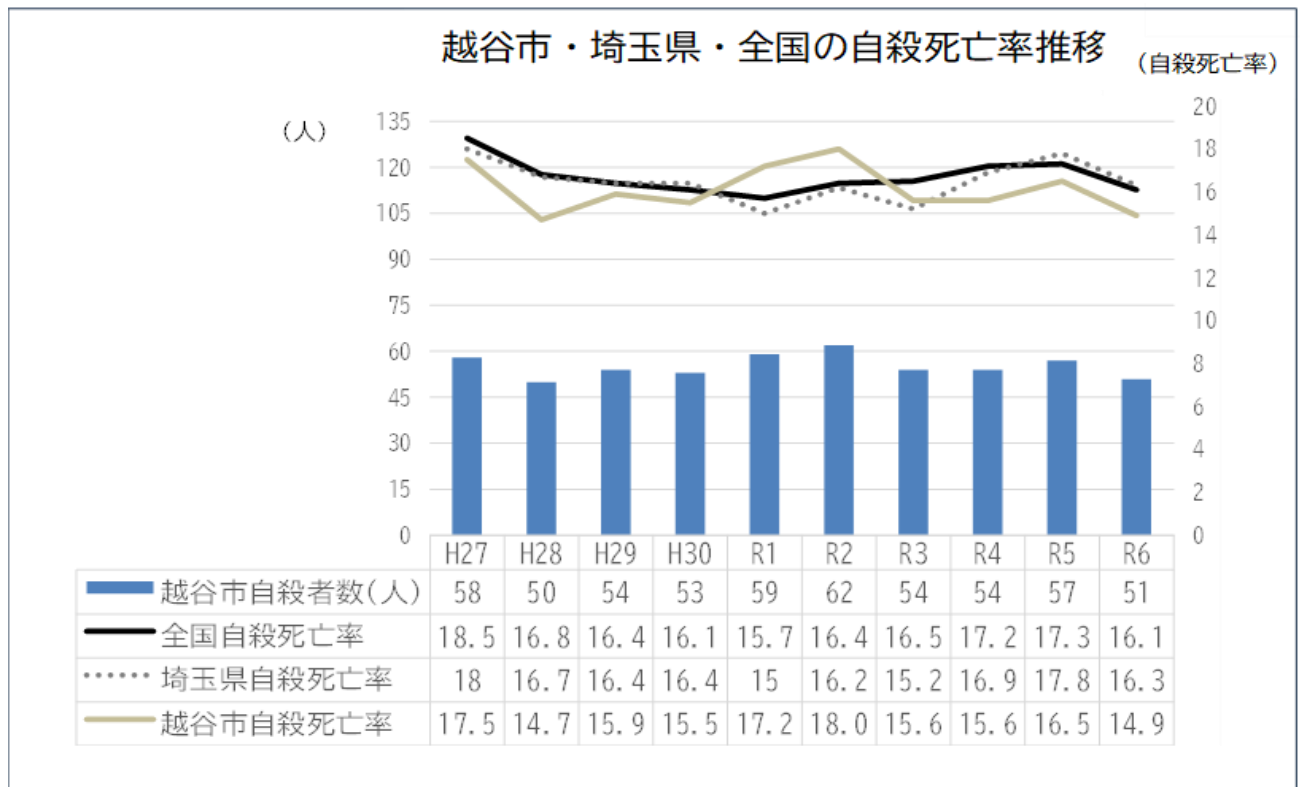
資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

小中高生別、性別自殺者数の年次推移



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

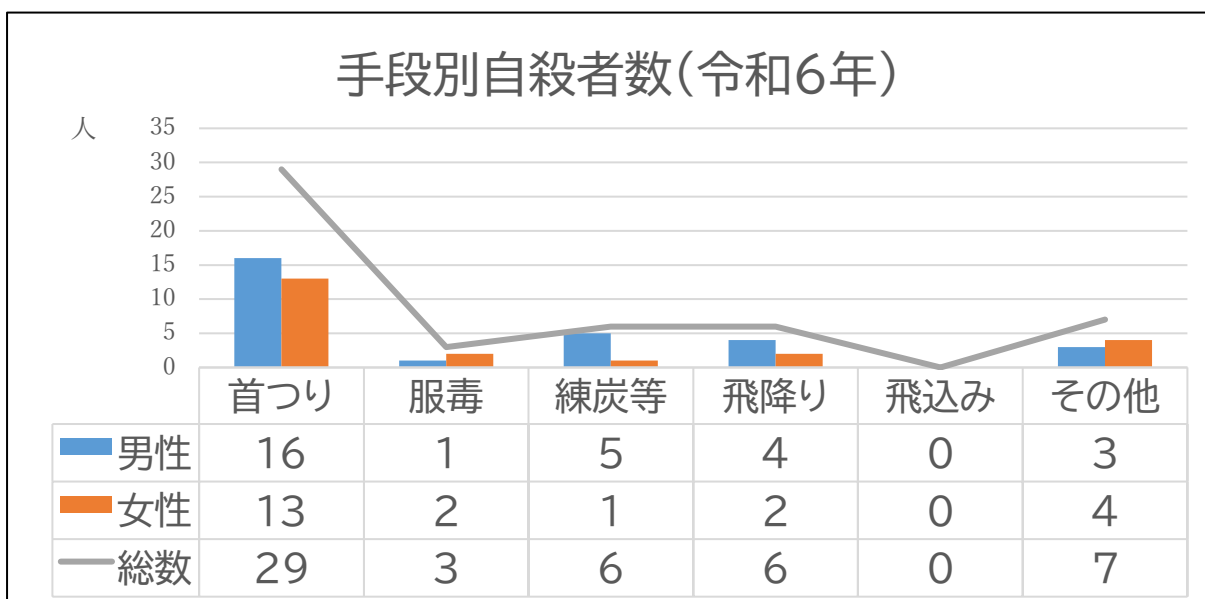
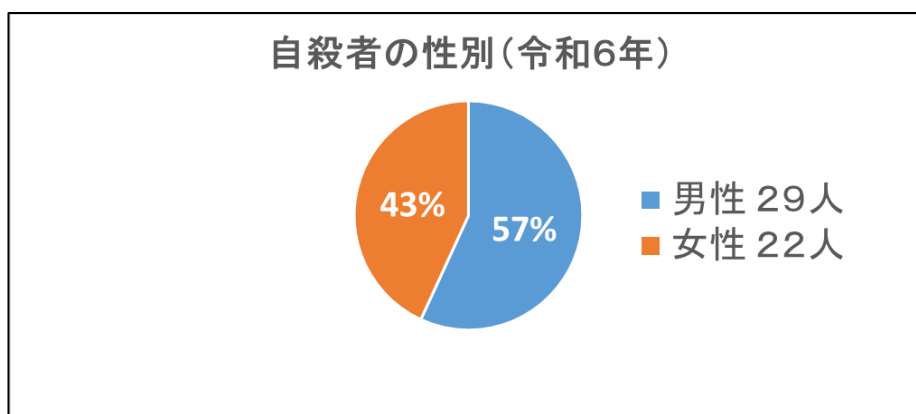
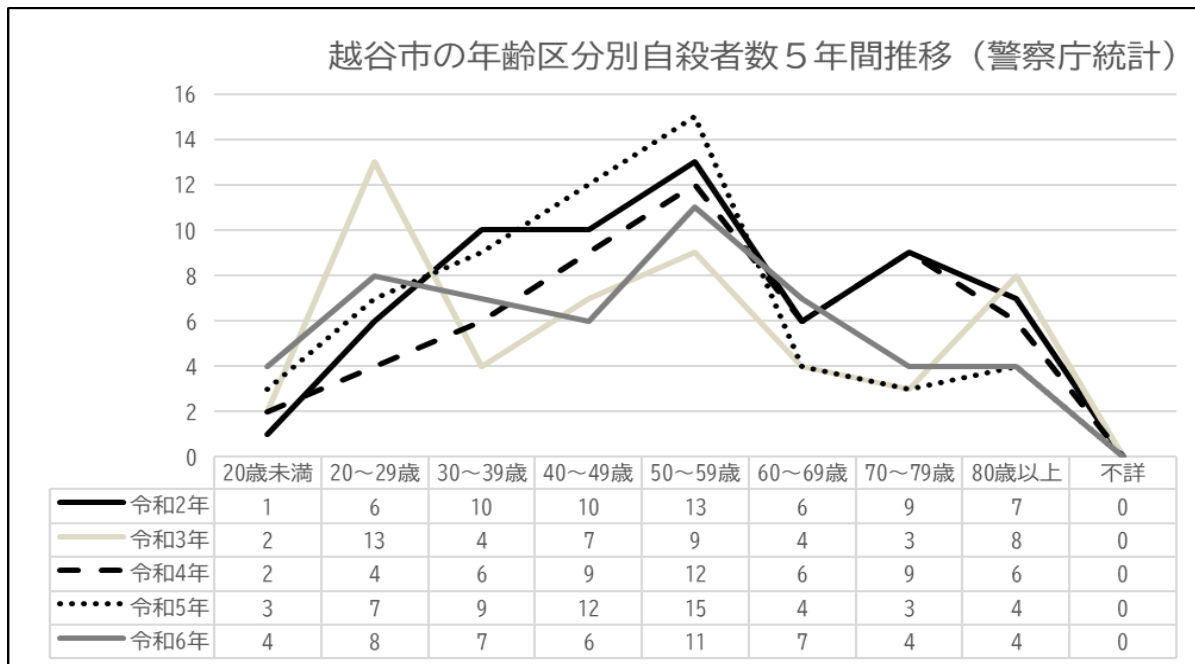
2 本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移

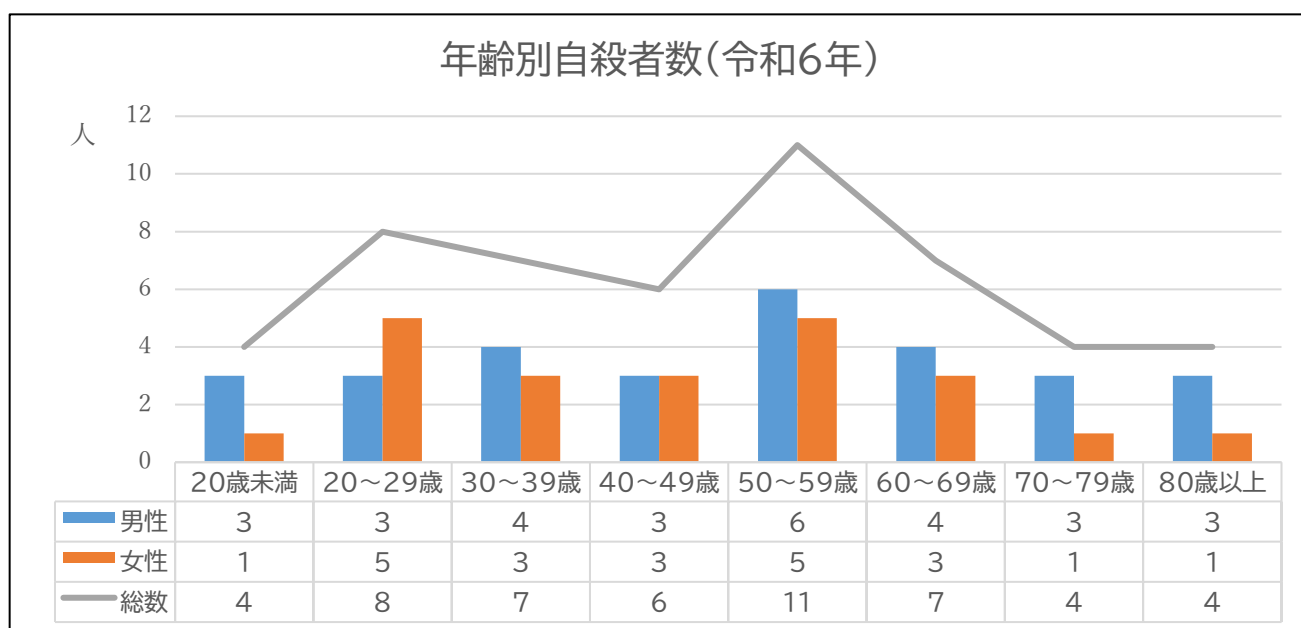
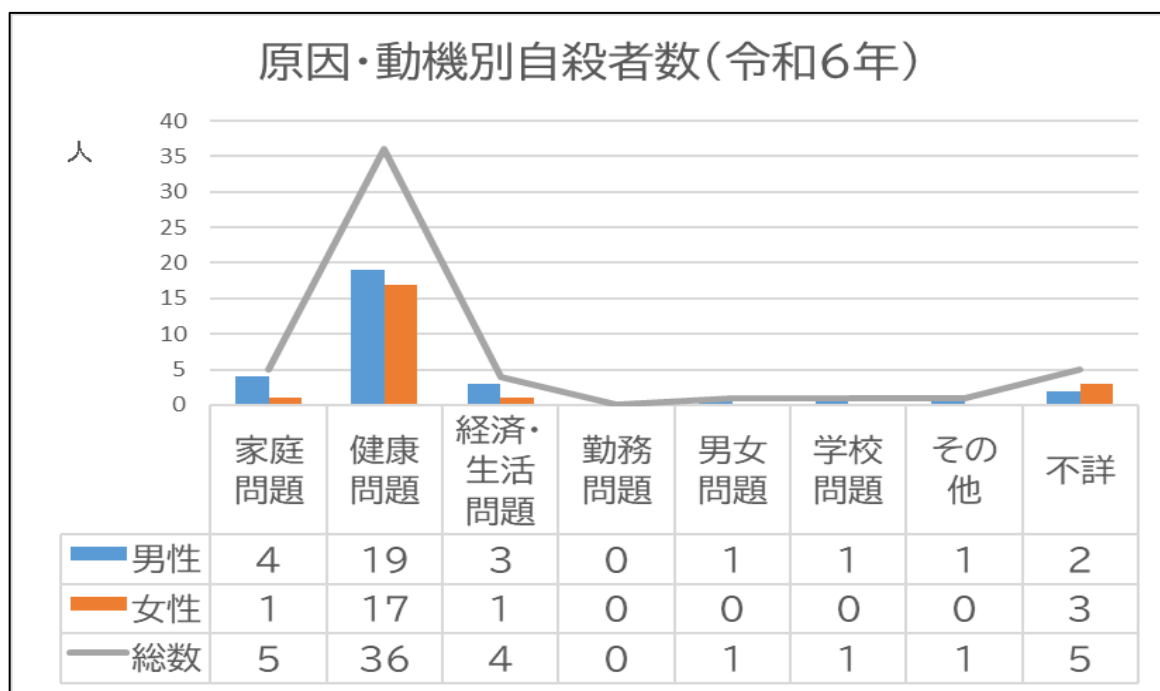


※自殺死亡率は人口10万人あたりの年間自殺者数の割合

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

3 本市の自殺の現状





令和7年1～8月の自殺者数(本市暫定値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
男	2	0	2	3	3	1	2	5	18
女	1	3	0	2	1	4	1	1	13
計	3	3	2	5	4	5	3	6	31